

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0790300073 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 心愛会 | | |
| 事業所名 | グループホーム ハーモニー中田 | | |
| 所在地 | 郡山市中田町下枝字久保337-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年9月10日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年3月20日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人福島県シルバーサービス振興会 | | |
| 所在地 | 〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年11月20日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成20年に開所し6年目を迎えました。地域との交流に力を注ぎ常に地域の方々に愛される施設を目指してまいりました。最近では地域のクリーンアップなどに参加し少しでも地域の方々のお役に立ちたいと思っております。施設の運営面では常にお客様の視線に立って介護サービスを行っているつもりですが、客観的にみてどうなのか考慮する必要があります。法人名のとおりに、お客様を心からおもてなしをして皆様のお役にたきたいと思っております。

1 事業所は小規模多機能型居宅介護事業所と併設しており、法人は市内及び近隣町村に同様の事業所を数ヶ所運営していることから、常時、事業所同士の情報交換を行い、事業所運営や介護サービスに反映させている。
 2 法人として職員の資質向上に努めており、法人全体の研修会の実施や外部研修への参加を支援している。さらに事業所独自では内部研修を年間計画し、講師は職員が交代で務め、職員それぞれが自己研鑽に励んでいる。今年度は3名が介護福祉士を取得している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎日、ミーティング・申し送り時に唱和をし、理念の共有を図っている | 法人の理念には「地域に喜ばれ役に立つ施設」を目指すことをうたっており、事業所独自の理念も作成している。理念は事務室に掲げ、「職員会議」等で確認し合って全職員が統一した意識のもと共有できるよう努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会には加入していないが町内の明るい街づくり推進員として各種地域事業への参加をしている | 事業所行事(夏祭り・芋煮会・新年会等)には多くの地域住民の参加があり、事業所としては地域の行事(廃品活動・清掃活動等)には積極的に参加し交流している。保育園児とはお遊戯会や運動会等に招かれ交流している。また、中学生の職場体験等も受け入れている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症の理解を得るための働きかけや相談等を実践している | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回程度開催し、事業所の状況や地域の情報交換を行って運営に関しての相談の機会としている | 運営推進委員は地域の各分野から選任され、定期的開催されている。事業所の現状や利用者の状況報告等を行っており委員からは意見や提言があり、事業所運営に活かされている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 地域や行政センター情報交換を行い協力関係を構築できるよう努めている | 利用者に対する相談等について情報を交換しており、行政からの助言等を得ながらサービスの質の向上に取り組んでいる。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束委員会を設け防止と周知を図っている | 身体拘束廃止のための委員会を中心にして「拘束のないケア」を実践している。「言葉による拘束」についても職員間で十分話し合い実践している。日中、玄関の施錠はしていない | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 外部研修・内部研修にて勉強会を行い防止に努めている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 内部研修にて成年後見制度について学ぶ機会を作っている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約締結については内容の確認を説明したうえでお客様に熟慮していただき締結している | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 年に1度、アンケート調査を実施して意見、要望などを家族様からいただき改善点等を検討し運営に反映させている | 家族の面会時や事業所独自の家族アンケート等を活用して意向把握をしている。把握した意見等は「ミーティング」や「職員会議」等で話し合い、日々のケアや事業所運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月、職員会議を開催し意見や提案を聞く機会を設けている | 職員間の融和が図られており、職員は常に管理者になんでも話せる体制となっている。また、職員会議等でも職員の意見を聞いている。提言等は全職員で話し合い、運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 人員不足の日などは職員相互に協力して超過勤務で対応している 職員はやりがいや向上心を持って勤務できるよう環境整備に努めている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員が法人主催の研修に参加してスキルアップできるように代表者が指導している | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修にて同業者との交流を図り他施設の状況やお客様の対応の仕方など情報交換してサービスの向上に努めている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 実調などで本人の状況や生活歴などを伺いご本人様が安心・安寧に生活できる環境作りをしている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 少しでも家族の負担が減るように要望等に耳を傾けながら協力してもらうことで良い関係づくりに努めている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人と家族が必要としている支援に出来るだけ応えられるように努めている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご本人が安心・安寧に過ごせる場所としてまた、他のお客様とも仲良く過ごせるように職員がフォローして対応している | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人の意思や尊厳を大切に支えていくように努めている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご本人が大切にしてきた馴染みの人などの関係を重んじて支援している | 利用者の友人等の訪問があり、継続的な交流が出来るように支援している。訪問理美容も受け入れている。併設する小規模多機能型事業所の利用者とは日常的に交流している。また、地域行事に参加した際には旧友との交流を楽しんでいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | お客様同士の関係は職員全員が把握出来るように申し送りなどで情報交換し同じ対応にてお客様が満足していただけるように努めている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 諸事情により、サービスが終了してもその後も対応できるように関係性を大切にしながら相談や支援に努めている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人様やご家族様に希望等を伺ってご本人様の意向に沿うように努めている | 日常のかかわりの中の会話や表情から利用者の意向把握に努めている。最近は意向の把握が困難な利用者が多くなってきているが、家族や職員間で話し合い利用者本位のケアになるよう努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人様やご家族様に生活歴などを伺って職員同士情報を共有している | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの行動など記録し把握している | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族との話し合いをして、本人の心身の状況などを考慮しケアプランを作成している | 利用者の思いと家族の要望を踏まえ、利用者の現状に即した介護計画を作成している。また、個別記録をもとにモニタリングを行ない、サービス計画の見直しをしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎月のミーティングで情報を交換し共有している 課題を話し合っている | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族と相談して柔軟なサービスを心がけている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | お客様の暮らしを支え安全で豊かな生活が出来るように支援している | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 受診や往診が適切に受けられるように支援している | かかりつけ医の受診を支援をしている。受診には家族対応を基本としているが、緊急時や利用者の状態によっては職員が対応する場合もある。受診後は家族と情報の共有をしている。また、協力医療機関からの往診もある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職員が定着しないが家族様の協力のもと受診や往診などを受けている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 定期的に医療機関との情報交換に努めている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 終末期についての話し合いを家族様と行い施設で出来ることを説明しチームで取り組んでいる | 「看取りに関する指針」を策定し、利用開始時に利用者および家族に説明し同意を得ている。看取り介護に入る際には主治医、家族、職員が十分話し合い実践している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 内部研修にて急変時や事故発生時の対応について学ぶ機会を作っている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練は定期的に実施しているが地域の方々との協力体制は今後の課題である | 年2回併設する小規模多機能型事業所と合同で総合防災訓練(消防署指導を含め)を実施している。事業所独自での避難訓練等は計画どおり実施できていない。災害時の食料品等については法人で備蓄しているが、今後は事業所としても備蓄するよう検討している。 | 災害時に全職員が利用者を適切に避難誘導出来るよう、あらゆる場面を想定した避難訓練を数多く実施されることが期待される。また、災害時の初期対応についても事業所全体で検討されることが望まれる。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 常に心がけている 内部研修等で職員全体に周知して対応している | トイレ誘導時の声掛けや入浴時の羞恥心への配慮等全職員が注意を払い、利用者の誇りやプライバシーを損ねない支援に努めている。また個人の記録も関係者以外は手が触れられない状態で管理されている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご本人様の希望に沿えるようにしている 自己決定が不可能な方については職員間で相談して決めている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 業務に追われてしまうこともあるがなるべくお客様の希望に沿った支援をしている | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | どの服装が良いか希望の服を伺う場合もあるが職員が決めてしまう場合もある | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている | お客様と職員が一諸に調理の準備をすることもあり食事が楽しみになるように工夫している | 献立は栄養バランスを考慮して利用者の希望を取り入れ「食事班」が作成している。利用者は食事の準備・片付け等を職員と共に楽しみながら行っている。利用者の状態によっては刻み食やおかゆなどにも対応している。行事食も多く企画し実践している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事班が栄養のバランスを考えて献立を作成し各職員がお客様の状態を申し送りなどで情報を共有している | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口の中の状態を適宜に観察してその状態に応じた口腔ケアをしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンを分析しその方に合った支援をしている | 利用者個々の排泄パターンを把握し時間や仕草から誘導し、トイレでの自然排泄に向けて支援している。リハビリパンツ・パット・オムツ等の使用も職員間で話し合い利用者一人ひとりにあった支援に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘になりがちな方などには食事面で献立を考慮したり食前体操などで予防をしている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | お客様のご希望に合わせて決定して実施している | 大型浴槽と機械浴のある浴室と個浴対応の浴室があり、利用者の希望により入浴支援をしている。入浴できない日には足浴・清拭で対応している。季節感のある菖蒲湯・ゆず湯や入浴剤等を楽しんでいる。入浴拒否の強い利用者に対しては家族の協力を得て自宅での入浴となっている方もいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 実調などによりそれぞれのお客様の情報を得て対応している | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | それぞれのお客様のファイルを作成して職員が閲覧し把握している | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個別レクなどによりその方の好きなことをしていただいている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | お客様のご希望に合わせて外出していただいている | 好天時には敷地内の散策を日課としている。菜園では野菜の栽培・収穫作業を楽しんでいる。季節ごとにお花見・初詣・紅葉狩り等ドライブでの外出支援をしている。お盆や正月に家族と共に外出、外泊、外食を楽しんでいる利用者もいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|-----------------------------------|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 所内研修などにより全体に周知している | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | お客様にお知らせして自由にやりとりができるようにしている | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 月1回全体で見直して検討している | 掃除が行き届き空調も適切に配慮され、気持ちの良い空間となっている。廊下は居間から非常口まで広く、非常口も開口部が広く避難時には有効である。廊下には文化祭に出展した作品などが展示され和みのエリアになっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 間取りなどを季節により変えている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている | ご本人様に伺ってその方らしい生活ができるようにきちんと対応している | 居室はベット使用者が多いが、マットにふとん使用の利用者もあり、希望により対応している。自宅で使用していた家具や電気製品等自由に持ち込み、それぞれ個性的な居室となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | お客様に(できること)(わかること)を伺って実施している | | |